

北砂小学校 研究だより

2026

No. 3

令和8年6月30日（火）
研究主任 木本 晴奈

今回は、図工の実践のご紹介です。3年生の児童が「熱中・没頭」して活動に取り組む姿がとてもよかったです。まさにわたしたちの目指す児童の姿でした。

個人的には昨年度2年生の児童と生活科「おもちゃ作り」の学習をしたのを思い出し、成長を実感するとともに、学びの連続性を感じることができました。ぜひご覧ください！



第2回目の授業（図工）をご紹介！

6月5日（金）に3年生図工「図工室へようこそ」の研究授業を図工専科の間教諭が行いました。図工室にある材料や道具を自由に探検しながら、ピンポン玉を転がすコースづくりに取り組みました。図工室には、教室ではなかなか見られない材料がたくさんあります。子どもたちは「これ使えそう！」「これはどこにあったの？教えて！」と発見を楽しみながら活動しました。図工室にある材料や道具の特徴に気付きながら、自分の発想を形にする楽しさを味わうことができました。

これからも図画工作科では、「つくり、つくりかえ、つくる」活動を通して、自分らしい表現する力を育てていきます。また、STEAM教育の視点を生かし、試行錯誤しながら新たな発見や価値を生み出す学びを大切にしていきます。



北砂小学校 研究だより

2026

No. 3

未来をそうぞうする児童の育成

～STEAM教育の実践を通して～



★授業を参観した教員の感想

こどもたちが活動に没頭していた。話合いの時間や設計図作りの時間を設けなくても、活動しながら試行錯誤をしていたのだと思う。グループでの競争にならず、自分の作りたいものに集中できたことがよかった。

こどもたちが楽しそうに取り組んでいた姿を見て、私も胸が熱くなりました。失敗したって繰り返せばいいというこどもたちの声を聞いて未来を創造する強さを感じ、この研究の進む道が間違っていないと思いました。

児童の笑顔がたくさん見られた授業で、これがSTEAM教育の目指すところだなと感じました。その笑顔のためにも、題材や課題選びがとても重要であるということに改めて実感することができました。

作品を完成させることが目的ではなく、材料に触れ、形を変え、試行錯誤するプロセスそのものを楽しむ活動であった。このプロセスが、主体的な探究や課題解決力の育成にもつながっていた。何より夢中にやっていた。

保護者のみなさまより

ご意見ご感想フォームにお寄せいただきました。ご関心をもっていただけることが何よりありがたいです！子どもたちの未来と一緒に考えていきたいです。

STEAM教育が興味深いです。世界の教育では紙ベースに戻していこうという動きがあるとも聞きます。小学生にどの程度活用していくのが適当なのかが判断が難しいので気になっています。

私たち教員の授業前の検討会、授業後の協議会でも毎回あがる議題です。北砂小では「デジタルベストミックス」をめざして、適切に使い分けができるようにしています。どちらにせよ、しっかりと「思考」をうむことができるようにということを意識しています。

教育のことは詳しくありませんが、AIを使って学習するのは貴重な機会でありありがたいなあと思います。新しいことを取り入れて挑戦する北砂小にかなわせてよかったと思います。ツールとして便利に使う、使い方を知ることが今後に生きると思います。



今後の予定は？

6月15日に、2年生の生活科の授業を行いました。また、7月2日には3年生の総合的な学習の時間の授業も控えています。研究授業をするにあたって、事前検討を複数回行い、事前授業も行っています。今年度は、12月の研究発表に向けて少し前倒して進めているため詰まっていますが、とても充実しています。

またご紹介させていただきます♪



ご意見ご感想はこちらへ